

影佐禎昭 陸軍軍人。中国で諜報活動を続け、汪兆銘政権誕生の裏工作もした。

かけささだあき

郡司千島探検1893 = 元広島藩士(小学校長)影佐造次の長男として、広島県に生まれた。

日清戦争始・1894 = 1歳 :

教科書疑獄・1902 = **9歳** :

日露戦争終・1905 = 12歳 :

大阪府立市岡中学校を経て、陸軍士官学校に進み、

大逆事件判決1911 = **18歳** :

明治天皇没・1912 = 19歳 :

第一次大戦始1914 = 21歳 : 卒業して、砲兵少尉に任官した。

大暴落・・・1920 = **27歳** :

原敬首相暗殺1921 = 28歳 :

護憲三派圧勝1924 = 31歳 : **陸軍大学校を優等で卒業して、参謀本部作戦課に配属される。**

治安維持法・1925 = 32歳 : 東京帝国大学法学部に聴講生として派遣され、

青年将校時代から中国問題に関心を持ち、この間、陸軍の中国政策を一新しようとする抱負を抱いて、**中国問題専門家に転向。**

共産党事件・1928 = 35歳 : 聴講を終了、

世界恐慌・・・1929 = **36歳** : **参謀本部から派遣されて、中国に留学、**

海軍軍縮条約1930 = 37歳 : 帰国し、

満州事変・・・1931 = 38歳 :

参謀本部支那班長・上海駐在武官を歴任、

日中戦争始・1937 = 44歳 : *日中戦争勃発直後、砲兵大佐に進級し、参謀本部支那課長に就任した。当時陸軍部内では日中戦争の処理をめぐっていわゆる拡大派と不拡大派が鋭く対立する中、強硬派だったが、石原莞爾少将の不拡大論に強く影響され、一転して熱心な和平派に転向し、

健保+総動員 1938 = **45歳** : 「蒋介石を相手にせず」との第1次近衛声明が発せられ、蒋政権を対象とした日中和平の見通しは絶望化したと見られたので、蒋政権内の和平派である汪兆銘の引出しに着目し、松本重治・犬養健ら民間人の協力を得て、「無併合、無賠償」という寛大な条件で和平条件をまとめ、

大政翼賛会・1940 = 47歳 : 「江を首班とする新中央政府が南京で成立したが、期待に反し中国民衆の信頼を得られず、弱体政権に終り、司令部と折り合わず、汪政権の最高軍事顧問をつとめたのち、

日米開戦・・・1941 = 48歳 :

・・・1942 = 49歳 : 第7砲兵司令部付となる。**中将となり、**

創価学会検挙1943 = 50歳 : **ラバウルの第38師団長として出征、**

敗戦・・・1945 = 52歳 : *現地で<敗戦>を迎え、復員後、中国の戦犯指名を受けたが、痛疾の肺疾患で2年余の療養ののち、

新憲法公布・1946 = **54歳** :

極東裁判判決・1948 = 55歳 : 東京で**没した。**